

山内滋夫 略歴 1947年 大阪府生まれ
1966年 祖父・里見勝蔵に師事
1972年 渡仏(~77年) パリ国立美術学校に学ぶ。ペルナール・ロルジュに師事
1978年 写実画壇展に出品(以降毎年)
1980年 横浜高島屋にて個展(82、84、85、88、98、2000、06、10年)
1983年 東京、もりもと画廊にて個展(85、87、89、91年)
1984年 大阪、たきい画廊にて個展(86、88、90、93、96、99、03、06年)
1986年 現代形象展(ストライプハウス美術館 87年)
1988年 俊洋展(日本橋三越 ~94年)
1991年 弓手会展(横浜高島屋 ~98年)
1992年 谷神健二・山内滋夫2人展(彩林堂画廊)
1998年 八月会展に出品(日動画廊 ~06年)
2001年 日本橋高島屋にて個展、大阪店他巡回(04、08、12年)
2005年 八章会展、横浜高島屋他巡回(07、09、11、13年)
2007年 アートフェア東京2007(東京国際フォーラム)
2010年 實の会展 (日本橋高島屋 12、14年)
2012年 青木繁「海の幸」オマージュ展(ぎやらりいサムホール、13年~永井画廊)
2013年 新・環展(永井画廊 14年)、大庭英治・山内滋夫2人展(ギャラリー・アートもりもと)
2015年 横浜高島屋、京都高島屋にて個展
現 在 写実画壇会員

 Takashimaya

山内 滋夫 展

■高島屋横浜店 7階美術画廊 平成27年6月3日(水)→9日(火)

(営業時間：午前10時~午後8時。最終日は午後4時で閉場させていただきます。)

■高島屋京都店 6階美術画廊 平成27年7月8日(水)→14日(火)

(営業時間：午前10時~午後8時。最終日は午後4時で閉場させていただきます。)

山内滋夫展によせて

山内さんの作品の魅力は、何と言ってもその明快さにある。曖昧さが微塵も無いその作品世界は、透徹した美意識に貫かれており、見ていて気持ちが良い。

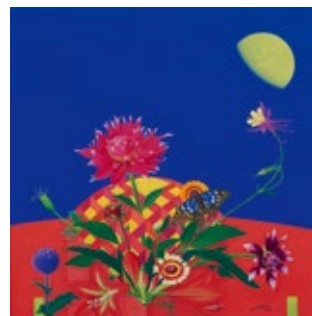
色彩、フォルム、構成、そのどれをとっても緻密に考え抜かれており、研ぎ澄まされ、完結した小宇宙を創造している。この小宇宙を司る独自の美意識は、伝統とモダンの両極を統べることによって初めて生まれるものだ。大和絵、琳派に連なる伝統的な美意識が、西洋の合理的な造形思考によって翻案され、鮮やかに現代に蘇生されている。日本人洋画家たちの長い間の懸案であった、東西の美の融合という課題が、ここに見事に結実している。

山内さんは祖父、里見勝蔵と、戦後フランス画壇の旗手、ベルナール・ロールジュという二人の師を持つ。この二人から徹底して学んだことは「純粹であること」「模倣をしないこと」。このことを深く心に刻み、倦むことなく研鑽を重ねてきた。今ある山内さんの明快で独自の絵画世界は、その長きにわたる研鑽による賜物である。

土方明司（美術評論家 平塚市美術館館長代理）



「夏の宵」 120号変形 64.7×194.0cm



「夏の夕べ」 10号S 53.0×53.0cm